

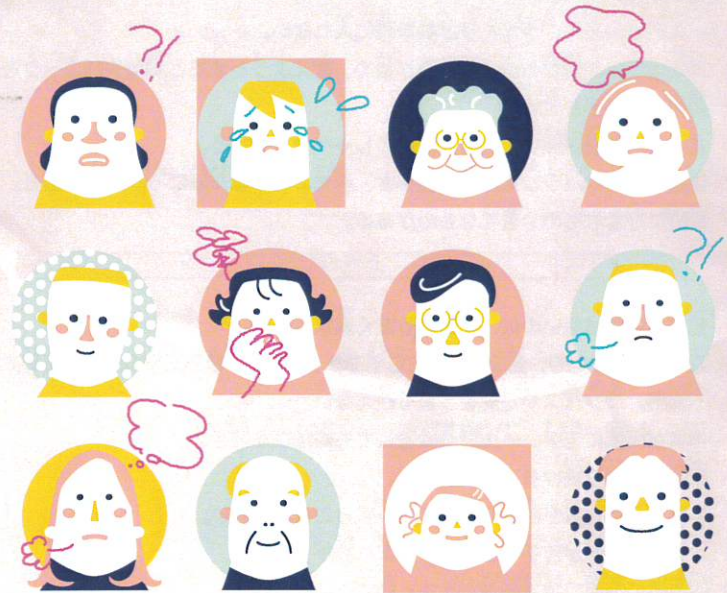


はったつしょう
発達障がい相談・支援機関一覧

機関名称	電話番号	所在地
大阪市発達障がい者支援センター「エルムおおさか」	☎6797-6931	平野区喜連西6-2-55
大阪市中央こども相談センター 此花区、中央区、西区、港区、大正区、天王寺区、浪速区、東成区、生野区、城東区、鶴見区、住之江区、西成区	☎4301-3100	中央区森ノ宮中央1-17-5
大阪市北部こども相談センター 北区、都島区、福島区、西淀川区、淀川区、東淀川区、旭区	☎6195-4144	東淀川区淡路3-13-36
大阪市南部こども相談センター 向信野区、住吉区、東住吉区、平野区	☎6718-5050	平野区喜連西6-2-55
就学に関する相談		
① 通学区の小学校・中学校	☎6327-1016	(インクルーシブ教育推進担当) 東淀川区東淡路1-4-21
② 教育委員会事務局指導部インクルーシブ教育推進担当		
教育に関する相談 大阪市中央こども相談センター 教育相談		
① 面談による相談 (要予約)	☎4301-3100	中央区森ノ宮中央1-17-5 ※電話による相談です。
② 電話教育相談 (こども専用)	☎4301-3140	
③ 電話教育相談 (保護者専用)	☎4301-3141	
就労に関する相談		
大阪市東部地域障がい者就業・生活支援センター (発達障がい者就業支援コーディネーターがいます)	☎6776-7336	天王寺区東上町4-17
知的障がいを伴う18才以上の方の相談		
大阪市立心身障がい者リハビリテーションセンター “はーとふる”ぶらざ	☎6797-6562	平野区喜連西6-2-55

はったつしょう
発達障がいの
りかい
理解のために

とくちょう せつ かた
特徴と接し方
の
ほいんと
ポイント



発達障がいの特性がある方は、周りの人からみるとそれが特性だとはわかりにくい場合も多く、「話が通じない」「わがままで」「不注意な人だ」「努力が足りない」などと思われてしまって、理解されにくいことがあります。一方で、周りの方の理解や協力があれば、本人が感じる困難さを減らせることがたくさんあります。

このリーフレットは、そういった発達障がいのある方の特徴とかかわり方についてのポイントをまとめたものです。



「ちょっと気になる」ことは ありませんか？

たとえば…

就学前

- 落ち着きがない。
- 注意が伝わりにくい、指示が入りにくい。
- 視線が合いにくい。
- 一人遊びが多く、うまく子どもの輪に入れない。
- 特定のものや順番へのこだわりが強く、変えようとするとう癇やパニックを起こす。
- 初めての場面が苦手。
- ことばの発達が遅かったり、独特のしゃべり方をする。
- 姿勢の保持やバランス感覚の苦手さ、手先の細かな作業に不器用さがある。
- 極端に好きなものや苦手なものがある。

学齢期

- 知的な遅れはないのに、学習がうまく進まない。
- 鏡文字を書いたり、音読が極端に苦手であったりと、読み書きの問題が顕著に見られる。
- 不器用。コンパスや定規をうまく使えない。
- 体育が極端に苦手。一生懸命練習しても縄跳びが苦手。
- 授業中、座り続けることが難しい。
- あちこちに注意が散って学習に集中することが難しい。
- 片付けや準備が苦手であったり、忘れ物が多い。
- 同年齢の集団で友達関係がうまく持てない。
- 相手の気持ちに気づかず、一方的に話してしまうことが多い。
- ことばを字義通りに解釈したり、冗談が通じないことがある。

成人期

- 一生懸命努力しても、人間関係がうまくいかない。
- ささいなことが気になって仕事が遅くなってしまふ。
- 複数のことを同時にこなすことが難しい。
- 段取りを考えることが苦手。
- 気をつけているつもりなのに、いつも何かを見落としてしまふ。
- 極端に方向感覚が悪い。
- 視覚入力や聴覚入力など、入力モードによって、出来・不出来が大きく異なる。
- 場の雰囲気を読み取れない。



どんなふうにかかわればいいのか？

周囲の人が本人の特徴を理解し、適切な対応や必要なサポートを受けることで、本人が感じる困難を減らし、「自分は認められている」「大切にされている」と感じながら、安心して生活を送ることができます。

1. できたことをほめる / できないことを責めない

頑張っていることやうまくいっている点を具体的にほめましょう。
できないことを叱り続けるよりも効果的です。

2. 視覚的な情報を提示して説明する

話しことばで伝えるよりも、目で見てわかる情報のほうが理解しやすい人がいます。
写真や絵などを使うと理解しやすくなります。

3. 説明や指示は短い文で、順を追って、具体的に伝える

ことばで説明するときは、遠回しな表現や抽象的な指示では伝わりにくく、混乱しやすくなります。「短いことばで」、「一つずつ」、「ゆっくりと」、「具体的に」伝えましょう。

4. 安心できる環境を整える

人込みや大きな音、光などの刺激が苦手な人がいます。そのような刺激によるパニックや癇癇をおこさないように、音や光など、感覚を刺激するものが少ない、静かで安心できる環境をつくってあげましょう。

5. 善悪やルールとともに、どうすればよいかを具体的に教える

してはいけないことや迷惑なことはしっかりと教えましょう。
その際に、「〇〇してはいけない」だけでなく、具体的にどのようにしたらよいか伝えましょう。

6. 本人が落ち着くまで待つ

パニックになったときなど、少しの間待つことで比較的早く混乱から抜け出せることがあります。叱られるだけでなく、声をかけられたり、なだめられたりすることで混乱してしまうことも多いようです。

発達障がいの特徴と対応の一例を示していますが、人によってどんなことが得意でどんなことが苦手なのか、どのようなサポートが必要なのかは異なります。周りの方から理解され、支えられれば、安心・自信・意欲・家族や周囲の方への信頼が生まれます。それによって、本人だけではなく周りの方も共に安心して生活しやすくなります。